

—藍—

● 藍の出花 ではな

（染料の藍汁を棒でかきませて仕上げるとき美しい紺色の泡が、一か所に集まり、これを藍の花というところから）女性が年頃になって美しくなったさまにいう。

● 青は藍より出でて藍より青し

（青色の染料は、藍より取るが、原料の藍よりも青いの意から）教えを受けた人が、教えた人よりすぐれることをいう。弟子が師よりすぐれていることのたとえ。

● 藍より出でて藍より青く、水より出でて水より寒し

「青は藍より出でて藍より青し」を強めて言うため、対句として似たような意味合いの句を並べたもの。

● 藍より出でて藍より濃し・紺は藍より出でて、藍より濃し

「青は藍より出でて藍より青し」に同じ。

● あいは紺屋にじじむやす じいぢや（＝紺屋の紋所・紺屋の使い物）

「あい」を「藍」にかけて、相手に「あい（はい）」と返事をさせてから、それをからかっていう言葉。

あさぎ

—浅葱—

●浅葱に言う

（薄い藍色の感じから）さっぱりした物言いをする。簡単に、あっさり話す。

●浅葱にやる（＝浅葱にする）

① いいかげんにすませる

② 駕籠^{かじ}かき仲間の隠語で、わざと駕籠を遅くする。

すきん

●浅葱の頭巾を脱ぐ

変装用の浅葱色の頭巾を脱ぐ。転じて、正体を現すことをいう江戸の演劇社会の隠語。

ももひきまつざかじま

●浅葱の股引松坂縞

（浅葱色の股引をはき、松坂縞の着物を着る習慣があったことから）呉服屋の店員などをあざけっていう語。

あさぎかたびらくろこそで

●浅葱帷子黒小袖

浅葱色のかたびらと、黒の小袖。上品な服装を並べあげたもの。

—染め物屋—

●染め物と鍛冶屋を三年辛抱すれば出世する

染め物屋は冷たい水を使うので冬が、鍛冶屋は火を使うので夏が非常につらい。このようなつらさに三年耐えられるほどの辛抱があれば、どんな社会においても出世する見込みがある。

―紺―

● 医者と股引やこんが良

「来ん」と「紺」をかけたしゃれ。

● 貧乏な染め屋でこんがない

貧乏な染め物屋には染料の紺が十分ないところから、「紺」を「根」にかけて、今期がないというしゃれ。

―紺屋―

か じ や あ し た こ ん や こ う や

● 鍛冶屋の明日、紺屋（紺屋）の明後日

簡単にうけあうが、いつも約束を守らないのにたとえる。

● 鍛冶のこんだ市、紺屋どんのあさって

い ち こ う や

（「こんだ市」はこんどの市の意）越後（新潟県）地方では、市が発達していたので、物をつけあい、約束するときによくこつこついったという。鍛冶屋の明日、紺屋の明後日と同意。

● 紺屋の明後日

（紺屋の職業は天候に左右されるので、明後日にはできると言って期限を延ばすことが多いところから）あてにならないこと。約束の守られないことのたとえ。

● 紺屋の明後日、医者のみ

両方とも口先だけで実行が遅れるところから、頼みにならないことのたとえ

● 紺屋の明後日、鍛冶屋の明後

（＝紺屋の明後日、鍛冶屋の晩げ）

（鍛冶屋が明後日にはできるといって請け合っが、じつはむおりにできあがるのが少ないことから）紺屋の明後日、医者のみと同じ。

● 紺屋の明後日七十五日（紺屋の明後日六十日）

紺屋があさつてと約束するのは、七十五日（六十日）後を意味するということ。あてにならないう。

● 紺屋の明後日弥^やの明後日

（「弥の明後日」は、明後日の次の日。しあさつて。また、一説にしあさつての次の日）「紺屋の明後日」を強調したことがば。

● 紺屋の地獄

紺屋が染物の仕上がる日を明後日といっは違約するので、死後地獄へ落ちるということ。

● 紺屋の地震

地震のために、染料の藍の汁を入れた桶がゆれて澄まないの意から、あい済まない（申し訳ない）というしゃれ。

● 紺屋の白袴

自分の技術が他人のためばかりに使われ、自身にまで及ばないことのたとえ。自分のことが後回しになること。また、いつでもできると思って放置しておき、結局はできなくて終わることのたとえにもいう。一説によると、昔、紺屋が多く白い袴をはいていたのは、染色の液を扱いながら白い袴に、しみうつけないという職人の意気を表したものだともいう。

● 紺屋町の夕立

（紺屋が多く集まっている町に、夕立がくるとどこでも外に干した染物をあわてて入れるところから）あわてふためいて物をとり片付けることのたとえ。